研究報告書第88号－４

平成27年度　教科に関する研究

研究主題
学習指導上の課題を踏まえた，児童生徒の
学びの充実を図る授業づくり

外国語活動・外国語（英語）

英語を使う力を育てる外国語活動・外国語（英語）科授業づくり

―小・中・高等学校の学びを円滑に接続させるCAN-DOリストを活用した学習指導の工夫を通して―

茨城県教育研修センター

目　次

Ⅰ　主題について・・・

外国語活動・外国語（英語）科研究主題

英語を使う力を育てる外国語活動・外国語（英語）科授業づくり
－小・中・高等学校の学びを円滑に接続させるCAN-DOリストを活用した学習指導の工夫を通して－

Ⅰ　主題について

１　外国語活動・外国語（英語）科における学習指導上の課題について

外国語活動・外国語（英語）科の目標は，コミュニケーション能力の育成であり，その中核は，外国語を運用することができる能力を養うことである。本研究においては，この外国語を運用することができる能力を，英語を使う力として捉え，その力を具体化したものが，各単元等において明確化した学習到達目標であると考える。

これまでの研究の成果から，学習到達目標を明確にすることは，児童生徒が積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うために重要であり，学習意欲を向上させるための有効な手立てであることが分かっている。一方で，児童生徒の実態を踏まえた学習到達目標を設定していないため，授業での積極性や学習への意欲を低下させてしまっている現状が見られる。また，本県の中学校第３学年及び高等学校第３学年の英語力は，第２期教育振興基本計画が示す英語力の目標には達していないことから，発達段階に応じた英語を使う力が身に付いていないと考える。これらのことから，英語を使う力を育てるための，小・中・高等学校を通じた，学習到達目標の設定及び学習指導が，十分に実践されていないことが課題として挙げられる。

２　学びの充実を図る授業づくりについて

本研究主題に迫るために，まず，小・中・高等学校の学びを円滑に接続させる，児童生徒の実態を踏まえた学習到達目標を設定する。次に，その学習到達目標達成に向けた，学習指導の工夫を通して，英語を使う力を育てることとする。この学習指導の過程及び工夫が，本研究における，児童生徒の学びの充実を図ることであると考える。そこで，主題に迫るために，次の(1)及び(2)を具体的な手立てとした授業研究を行う。

(1) 各学校段階の学びを円滑に接続させるためのCAN-DOリストの作成

小学校では英語に慣れ親しみながらのコミュニケーション活動，中・高等学校では英語での表現活動を重視し，小・中・高等学校における一貫した学習到達目標を明確化したCAN-DOリストを作成する（次頁に作成したCAN-DOリストを示す。）。小学校では，英語で楽しく体験的にコミュニケーションを図るという外国語活動の目標を踏まえ，「英語を使って何ができるようになったか」と振り返りに用いるリストを作成し，中・高等学校のリストとのつながりに配慮する。

(2) CAN-DOリストを活用し，表現活動を中心に英語を使う力を育てる学習指導の工夫

CAN-DOリストを活用し，学習到達目標を児童生徒に明確に理解させることにより児童生徒の学習意欲を高める。そして，小学校における表現活動，中学校での双方向的な表現活動，高等学校での即興性等を重視した表現活動を行い，これらの学習指導の工夫を通して，英語を使う力を育てる。

小・中・高等学校の学びを円滑に接続するCAN-DOリスト 【チーム ITTC】

英語を使う力

外国語理解の能力 ＜知識等 ＜体験・考えを通して活用＞ 技能＞ 外国語表現の能力

校種	学年	レベル	聞くこと 学習到達目標	〔科目〕・評価	読むこと 学習到達目標	〔科目〕・評価	話すこと 学習到達目標	〔科目〕・評価	書くこと 学習到達目標	〔科目〕・評価
高等学校	3	6	・相手の意見をメモを取りながら聞き，主張とその根拠等の要点を理解することができる。	〔コミュ英語Ⅲ〕 ・マイクロディベート ・ディスカッション ・プレゼンテーション ・リスニングテスト ・定期考査	・様々なジャンルの事柄について，実用的な文章から必要な情報を見つけ出し，その概要を理解することができる。	〔コミュ英語Ⅲ〕 ・マイクロディベート ・ディスカッション ・プレゼンテーション ・定期考査	・社会的な事柄について，英語で議論することができる。	〔コミュ英語Ⅲ〕 〔英語表現Ⅲ〕 ・マイクロディベート ・ディスカッション ・プレゼンテーション	・社会的な事柄について，相手を説得するために効果的な事例を取り入れ，自分の意見や感想を論理的に整理し，100語程度で書くことができる。	〔コミュ英語Ⅲ〕 〔英語表現Ⅲ〕 ・マイクロディベート ・ディスカッション ・プレゼンテーション ・定期考査
		5	・教科書の背景知識を活用しながら，既習の表現による短いニュースや物語などを聞き，その概要を理解することができる。		・社会的な事柄について，実用的な文章の概要を理解することができる。		・社会的な事柄について，他の生徒と賛成・反対いずれかの立場に立って主張し，その理由を述べることができる。		・社会的な事柄について，理由や具体例を効果的に取り入れ，自分の意見や感想を80語程度で書くことができる。	
	2	4	・相手の意見をメモを取りながら聞き，主張とその根拠等の概要を理解することができる。	〔コミュ英語Ⅱ〕 ・パフォーマンステスト ・ディスカッション ・プレゼンテーション ・リスニングテスト ・定期考査	・なじみのある話題について，未知の語の意味を推測したり，背景知識を活用しながら，その概要を理解することができる。	〔コミュ英語Ⅱ〕 ・ディスカッション ・プレゼンテーション ・定期考査	・なじみのある話題について，ポイントを示しスピーチすることができる。 ・友人の意見やスピーチを聞いて，質疑応答をしたり，意見を述べることができる。	〔コミュ英語Ⅱ〕 ・プレゼンテーション ・感想文述 ・ディスカッション ・インタビュー ・スピーチ ・Show & Tell	・なじみのある話題について，つながり目等や段落のつながりに注意して，自分の意見や感想を60語程度で書くことができる。	〔コミュ英語Ⅱ〕 ・プレゼンテーション ・感想文 ・ディスカッション ・インタビュー ・スピーチ ・Show & Tell ・賛約文
		3	・教科書の背景知識を活用しながら，物語や説明文をくり返し聞き，その概要を理解することができる。		・教科書の本文を複数の段落間のつながりや文章全体の構成に注意して読んで，概要を理解することができる。		・なじみのある話題について，作成した原稿を基に，発表することができる。 ・友人の意見やスピーチを聞いて，繰り返したり，感想を述べたり，質疑応答したりすることができる。	〔英語表現Ⅱ〕 ・自己紹介 ・Show & Tell ・インタビュー ・ディスカッション	・なじみのある話題について，論理の一貫性に注意して，理由や例を挙げながら自分の意見や感想をを50語程度で書くことができる。	〔英語表現Ⅱ〕 ・自己紹介 ・Show & Tell ・インタビュー ・ディスカッション
	1	2	・簡単な表現や，身近な話題について聞き，メモを取りながらその概要を理解することができる。教科書の背景知識を活用しながら，簡単表現の物語や説明文を繰り返し聞いて，その概要を理解することができる。	〔コミュ英語Ⅰ〕 ・パフォーマンステスト ・リスニングテスト ・定期考査	・教科書の本文を各段落内の要点に注意して読んで，概要を理解することができる。外国語学習者向けに易しい英語で書かれた説明文や物語の要点を理解することができる。	〔コミュ英語Ⅰ〕 ・プレゼンテーション ・定期考査	・学校や身の回りの話題について，自分の考えを，メモを用いながら即興で伝えることができる。 ・ペアやグループで，質問したり，答えたりすることができる。	〔コミュ英語Ⅰ〕 ・プレゼンテーション ・感想文述 ・スキットルトーク ・インタビュー ・スピーチ ・Show & Tell 〔英語表現Ⅰ〕 ・自己紹介 ・Show & Tell ・インタビュー ・スキットルトーク	・学校や身の回りの話題について，読み手にわかりやすい表現で，40語程度で簡潔に書くことができる。	〔コミュ英語Ⅰ〕 ・エッセイライティング ・スピーチ原稿 ・賛約文 ・定期考査 〔英語表現Ⅰ〕 エッセイコンテスト ポスター 手紙 メール 意見文 定期考査
		1	・簡単な表現や，くり返しや言い換えを聞き，指示や質問の内容を理解することができる。		・教科書の本文を読んで，内容の概要を理解することができる。外国語学習者向けに易しい英語で書かれた物語の大まかな流れを理解することができる。		・自分自身のことについて，即興で自己紹介をしたり情報を伝えたりすることができる。 ・ペアやグループで，聞き手に解るわかるように伝えることができる。	・自己紹介 ・Show & Tell ・インタビュー ・スキットルトーク	・自分自身のことについて，読み手に分かりやすい表現で，30語程度で簡潔に書くことができる。	
中学校	3	8	・100語程度の英文を聞き，その内容について日本語や英語でまとめることができる。	・ワークシート ・ペーパーテスト	・200～300語以上の物語や説明文を，辞書を用いずに読んで，そのあらすじや要旨を記述することができる。	・ペーパーテスト	・3人組(ペアも含む)で，インタラクティブフォーラム形式で，与えられたテーマを基に自分の考えを述べることができる。	・活動の観察 ・ディスカッション	・与えられたテーマについて100語程度で，まとまりのある英文を書くことができる。	・ライティングテスト
		7	・インタビューやアナウンス等を聞いて，その内容を正しく聞き取り，理解することができる。	・活動の観察 ・ワークシート ・ペーパーテスト	・抽象的な内容について書かれた英文を読み，内容を理解することができる。	・活動の観察 ・リーディングテスト	・与えられたテーマに基づいて，自分で作成した原稿をもとに，スピーチ(プレゼンテーション)を行うことができる。	・スピーチ (プレゼンテーション)	・与えられたテーマについて，短い英文でも論理的に自分の意見を英語で表すことができる。	・活動の観察 ・ライティングテスト
	2	6	・簡単なアナウンスなどを聞いて，全体の概要や内容の要点を適切に聞き取ることができる。	・ペーパーテスト	・未習語を含む150語程度の文章(物語，説明文)を読んで，あらすじや大切な部分などを読み取ることができる。	・ペーパーテスト	・与えられた複数のテーマについて，賛成意見と反対意見を基に話すことができる。	・インタビューテスト	・与えられたテーマについて，60語程度で内容的にまとまりのある文章を書くことができる。	・活動の観察 ・ライティングテスト
		5	・ALTへのインタビューを聞いて，全体の概要や内容の要点を適切に聞き取ることができる。	・ペーパーテスト	・未習語を含む120語程度の文章(物語，説明文)を読んで，あらすじや大切な部分などを読み取ることができる。	・ペーパーテスト	・将来の夢について，40語程度で事前に用意した原稿を覚え，グループ内で発表することができる。	・スピーチ	・場面や状況にふさわしい表現を用いて，自分の考えや経験について50語程度で書くことができる。	・ライティングテスト
		4	・ニュースの天気予報を聞いて，各地の天気や楽曲等の情報を正しく聞き取ることができる。	・ワークシート ・ペーパーテスト	・未習語を含む100語程度の文章(物語，説明文)を読んで，あらすじや大切な部分などを読み取ることができる。	・ペーパーテスト	・相手が話した内容に対して，質問，つなぎ言葉，相づちなどを用いて対話を発展させることができる。	・活動の観察 ・ディスカッション	・場面や状況にふさわしい表現を用いて，過去の思い出について40語程度で書くことができる。	・ライティングテスト
	1	3	・食べ物のクイズなどについての70語程度の対話文を聞き，聞き取った情報をメモすることができる。	・活動の観察 ・ワークシート ・ペーパーテスト	・100語程度の文章(物語，説明文)を読んで，疑問を述べたり，内容を整理したりすることができる。	・活動の観察 ・ワークシート ・リーディングテスト	・相手に対して即興的に，氏名や職業，年齢などについて質問することができる。	・インタビューテスト	・辞書などを用いながら，30語程度で日記を書くことができる。	・活動の観察 ・ライティングテスト
		2	・名前，年齢，出身等についての対話や自己紹介を聞き，情報を表にまとめることができる。	・ワークシート ・ペーパーテスト	・50語程度の文を読んで，読み取った情報を表にまとめたり，内容理解の質問に答えたりすることができる。	・ワークシート ・パフォーマンステスト	・原稿を見ずに，絵を見せるなどして人や物について20語程度で紹介することができる。	・活動の観察 ・スピーチ	・辞書などを用いながら，身近なことについて15語程度の英文で記述することができる。	・ライティングテスト
		1	・"Look at the board." や "Raise your hand." 等の簡単な英語の指示を聞いて，具体的な行動に移すことができる。	・行動の観察 ・パフォーマンステスト	・30語程度の文を読んで，読み取った情報を表にまとめることができる。	・活動の観察 ・ワークシート ・ペーパーテスト	・原稿を見ずに，15語程度で簡単に自己紹介をすることができる。	・活動の観察 ・スピーチ	・英語の簡単な挨拶や，自分の名前を書くことができる。	・活動の観察 ・ペーパーテスト

校種	学年	レベル	活動目標	ふり返り	活動目標	ふり返り
小学校	6	8	・相手の将来の夢についての話を聞いている。 ・職業の名前が分かる。	「できた」と自分自身でふり返った。(ふり返りカード)	・相手に将来の夢をたずねたり，答えたりする。 ・職業の名前を言う。	「できた」と自分自身でふり返った。(ふり返りカード)
		7	・相手の物語のセリフを聞いている。		・表情やジェスチャーをつけて，物語のセリフを言う。	
		6	・時刻が分かる。 ・相手の1日の生活についての話を聞いている。		・相手に時刻をたずねたり，答えたりする。 ・相手に1日の生活についてたずねる。 ・自分の1日の生活を紹介する。	
		5	・相手が行きたい国がどこかを聞いている。 ・様々な国の名前が分かる。		・相手に行きたい国をたずねたり，答えたりする。 ・様々な国の名前を言う。	
		4	・目的地への行き方を聞いている。 ・建物の名前が分かる。		・相手に目的地への行き方をたずねたり，答えたりする。 ・建物の名前を言う。	
		3	・相手ができることを聞いている。		・自分ができること，できないことを伝える。 ・できることをたずねたり，答えたりする。	
		2	・相手の誕生日がいつかを聞いている。 ・月の名前や日付が分かる。		・相手に誕生日をたずねたり，答えたりする。 ・月の名前や，日付を言う。	
		1	・相手が持っているものが何かを聞いている。 ・31～100までの数が分かる。 ・アルファベットの音を聞いて文字と一致させる。(小文字)		・相手にある物を持っているかをたずねたり，答えたりする。 ・31～100までの数を言う。 ・アルファベットの小文字を見て発音する。	
	5	9	・相手が欲しいものは何かを聞いている。 ・食べ物の名前が分かる。	「できた」と自分自身でふり返った。(ふり返りカード)	・ていねいに相手が欲しいものをたずねたり，答えたりする。 ・食べ物の名前を言う。	「できた」と自分自身でふり返った。(ふり返りカード)
		8	・身の まわりの物の名前が分かる。		・相手に身のまわりの物について何かとたずねたり，答えたりする。	
		7	・曜日の名前が分かる。 ・教科の名前が分かる。		・相手に時間割についてたずねたり，答えたりする。 ・曜日を言う。 ・教科を言う。	
		6	・相手が欲しいものは何かを聞いている。 ・アルファベットの音を聞いて文字と一致させる。(大文字)		・相手が欲しいものをたずねたり，答えたりする。 ・アルファベットの大文字を見て発音する。	
		5	・相手の好きなものが何かを聞いている。 ・様々な色や形の名前が分かる。		・相手に何が好きかをたずねたり，答えたりする。 ・様々な色や形の名前を言う。	
		4	・相手の好きなものやきらいなものが何かを聞いている。		・自分の好きなものやきらいなものを伝える。 ・相手の好きなものをたずねたり，はい，いいえで答えたりする。	
		3	・21～30までの数が分かる。 ・1～20までの数が分かる。		・いくつあるか数をたずねたり，答えたりする。 ・21～30までの数を言う。 ・1～20までの数を言う。	
		2	・相手がどんな気持ちかを聞いている。		・相手の気持ちをたずねたり，表情やジェスチャーをつけて，自分の気持ちを伝える。	
		1	・簡単なあいさつが分かる。 ・相手の名前が何かを聞いている。		・簡単なあいさつをかわす。 ・相手の名前をたずねたり，答えたりする。	

Ⅱ　授業研究

【授業研究１】（小学校第５学年）

CAN-DOリスト（ふり返り）を活用し，表現活動を中心に英語を使う力を育てる外国語活動の指導の工夫
－中学校への円滑な接続を意識したタスク活動を通して－

１　単元名　　Lesson９　What would you like?（Hi,friends!１）

２　単元の目標

○　欲しい物について，ていねいな言い方で積極的にたずねたり答えたりしようとする。
（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）

○　食べ物の名前や，欲しい物について，ていねいな言い方でたずねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。（外国語への慣れ親しみ）

○　日本と外国では，食べ物や食習慣に違いがあることに気付く。
（言語や文化に関する気付き）

３　単元の指導について

(1) 教材観

本単元は，世界の料理に興味をもち，自分が欲しい物についてていねいに表現すること，ランチメニューを作るために，ていねいな表現を使いながら，欲しい物をたずねることの二つのねらいがある。世界の料理やレストランでの会話を扱った内容は，児童の知的好奇心や意欲的な取組を高める上で，効果的な題材であると考える。

「筑西グルメフェスタを開こう」というタスク（課題）を設定し，自己表現力を培うための活動を展開する。筑西市の特産品を扱ったメニューをグループで考え，レストランを開く。児童は，社会科で学んだ筑西市の産業や食料生産に関する知識を活用し，課題に取り組むことができる。活動に具体的な目的をもたせることで，児童自らが思考し表現しようとする姿も期待できる。更に，地域の特産品を扱ったメニューをグループで協力しながら考案することで，思いを伝え合うことの喜びを体感させたい。

(2) 児童の実態

本学級には，インタビュー等の会話を用いたコミュニケーション活動より，カルタやビンゴなど，聞くことが中心となる活動を楽しいと感じている児童が多い。会話を用いたコミュニケーション活動に楽しさを感じられない理由として，言いたいことをどのように伝えるのか分からない等を挙げている。これは，今までの活動に，自己表現を楽しむ活動が少なかったことが課題であると考える。そこで，自己表現を促進させるためのタスク（課題）を設定し，活動を工夫する。

本単元では，ゲームを通して，食べ物の言い方やていねいなたずね方に十分に慣れ親しませ，児童がコミュニケーション活動に取り組むための土台を築く。また，本時では，実際のコミュニケーションを通して，ジェスチャーや表情の重要性にも気付かせる。レストランでの会話を用いたコミュニケーション活動では，児童が自然にコミ

ュニケーションを図りたいと思えるように，実際の状況を模した環境を設定する。また，ふり返りカードを，児童の更なる意欲の高まりにつなげるために活用する。以上の活動を通して，児童が積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育て，英語を使う力の育成につなげていきたいと考える。

(3) 主題に迫るための手立て

ア　CAN-DOリスト（ふり返り）の活用

ふり返りカードとCAN-DOリスト（ふり返り）を併用し，外国語活動を通して，児童が自分自身の成長を確認することができるようにする。指導者が評価するためのCAN-DOリストの活用だけではなく，児童が「自分ができるようになった」ことへの気付きに役立てる。

イ　中学校への円滑な接続を意識した外国語活動の工夫

中学校への円滑な接続を図るために，小・中・高等学校の学びを円滑に接続するCAN-DOリスト（以下「CAN-DOリスト」とする）における中学校第１学年の「話すこと」レベル１の学習到達目標を意識して指導する。そのために，「筑西グルメフェスタを開こう」というタスク（課題）を設定し，自己表現力を培うための活動を展開する。

(4) 指導計画（４時間取り扱い）

時	本時の目標	学習内容・活動	評価の観点			方法	評価規準
			関	慣	気		
1	世界には様々な料理があることや，英語での食べ物の言い方を知る。	・Let's chant. ・Activity 2 ・ビンゴゲーム ・ウィスパーゲーム			○	ふり返りカード	英語と日本語の食べ物の言い方の違いや世界に様々な料理があることに気付いている。
2	欲しい物についてていねいな言い方でたずねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。	・Let's listen 1 ・仲間探しゲーム ・パフェを作ろう。		○		行動観察 ふり返りカード	欲しい物についてていねいな言い方でたずねたり答えたりしている。
3	ていねいな言い方でのやりとりを心がけながらグループでおすすめメニューを作る。	・Let's listen 2 ・筑西市の魅力がたくさんつまったおすすめメニューを作ろう。 ・発表と会話の練習	○			ふり返りカード	ていねいな言い方でのやりとりを心がけながらグループでおすすめメニューを作ろうとしている。
4 本時	欲しい物についてていねいな言い方で積極的にたずねたり，答えたりしようとする。	・Let's listen 2 ・コマーシャルタイムに取り組んでみよう。 ・筑西グルメフェスタを開こう。	○			行動観察 ふり返りカード	欲しい物についてていねいな言い方で積極的にたずねたり，答えたりしようとしている。

4　本時の指導

(1) 目標

欲しい物について，ていねいな言い方で積極的にたずねたり答えたりしようとする。

(2) 準備・資料

Hi,friends，メニューカード，ピクチャーカード，パソコン，大型テレビ

(3) 展開

<table>
<tr><th rowspan="2">学習活動・内容</th><th colspan="2">指導と評価</th></tr>
<tr><th>ＨＲＴ</th><th>ＡＬＴ</th></tr>
<tr><td>1　挨拶をする。
・Hello，friends!を行う。</td><td colspan="2">・明るく元気に英語で挨拶し，これから英語を使おうとする雰囲気をつくる。
・Hello,friends!のモデルを示し，１分間で友達と挨拶を交わすことを英語で指示する。</td></tr>
<tr><td>2　ウォームアップをする。
・曜日，月の歌を歌う。
・日付と天気を言う。
・Let's chant!を行う。

3　本時の学習課題を確かめる。

筑西グルメフェスタを開こう。

4　本時の活動に取り組む。
(1)　Let's listen 2を行う。

(2)　コマーシャルタイムを行う。
・発表のポイントを確認する。
・グループごとに，前時に作ったオリジナルメニューを紹介する。</td><td>・多くの児童と挨拶する。
・自分の気持ちを自由に表現してよいことを伝える。
・日付，曜日，天気のカードを示し，視覚的に確認させながら児童と一緒に楽しく歌う。
・デジタル教科書を操作する。
・本時のめあてと活動の流れを確認させる。
・児童の様子を見ながら，必要に応じて繰り返し音声を聴かせるようにする。
・Lesson5で学習した，分かりやすい話し方（声の大きさ，話す時の速さ，表情，ジェスチャー）を想起させ，それらを意識しながら話せるようにする。</td><td>・児童と一緒に活動しながら必要に応じて助言する。

・歌の後には，日付，曜日，天気を確認しながら発音する。
・体全体を使ってリズムを取りながら，チャンツを行うようにする。

・教科書のLet's listen 2を行うことを告げる。
・児童を指名しながら答えを確認する。
・ALTの出身地の特産品を取り入れたメニューを紹介することで，活動に対する児童の意欲を喚起し，活動の具体的なイメージをもたせる。</td></tr>
<tr><td>(3)　筑西グルメフェスタを開く。
・店員役の児童は，客役の児童からオーダーを取り，メニューカードを渡す。
・客役の児童は，様々なレストランを訪れ，メニューカードを集める。
・グループ内で店員と客の役割を交換しながら活動する。

店員：What would you like?
客：I'd like ~.　~, please.
店員：O.K. ~and ~？（くり返す。）
客：Yes, please.
店員：Here you are.
（メニューカードを渡す。）
客：Thank you.</td><td colspan="2">・店員役と客役となって，表情やジェスチャーを使いながら活動のモデルを示す。
・表現の練習を行い，活動の流れを確認する。
・児童の様子を観察し，言い方が分からない児童や戸惑っている児童を支援する。また，男女問わずコミュニケーションが図れるように声かけをする。
・言い方が難しければ，表現にこだわらず，単語だけで表現してもよいことを伝える。
・グループで教え合い，協力し合いながら活動するように助言する。
・必要に応じて活動を止め，積極的に発話したり，ジェスチャーや表情をコミュニケーションスキルとして効果的に使っていたりする児童を紹介する。
・児童の会話の中で，即興的なやりとりが見られたら，称賛し励ますようにする。

評　欲しい物について，ていねいな言い方で積極的にたずねたり答えたりしようとしている。[CAN-DOリストの活用]
（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）</td></tr>
</table>

5　本時の学習を振り返り，次時の学習内容を知る。[小・中の円滑な接続] ・本時のふり返りをカードに書いて発表する。 6　挨拶をする。 Good bye. See you next time.	・振り返りの観点を示し，楽しかったことやがんばったことを記入するように助言する。 ・コミュニケーションについて書いている点を称賛する。 ・次時への意欲付けに，称賛の言葉をかけ挨拶をする。	・次時への意欲付けになるように，具体的に児童のよかった点を挙げて称賛する。 ・次時は，様々なゲームを通して，今まで学習した表現を振り返ることを告げる。

5　授業の分析と考察

(1) CAN-DOリストの活用

ア　ふり返りカードの活用

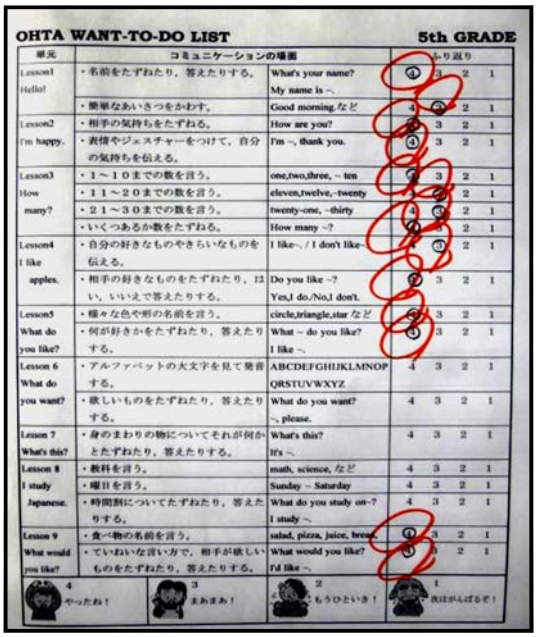
資料１は活動の最後に記入したふり返りカードである。カードの記入から，児童は本時の活動を振り返りながら，「欲しい物を英語で言えてよかったです。」，「食べ物の名前がうまく言えるようになった。」，「店員に分かりやすく伝えられてよかった。」など，本時の授業で自分が英語を使ってできるようになったことに気付いていることがうかがえる。ふり返りカードの活用は，外国語活動の振り返りのみではなく，中学校から活用するCAN-DOリストへの接続の円滑化に役立つものであると考える。

資料１　ふり返りカード（一部抜粋）

イ　CAN-DOリスト（ふり返り）の活用

資料２は，CAN-DOリスト（ふり返り）である。本リストは，資料１のふり返りカードと連動しており，児童に明確な目標をもたせるとともに「できた感」を味わわせ，学習意欲を高めるための効果的な手立てになったと考える。教師にとっても，具体的な授業改善へのヒントとなり，CAN-DOリスト【中学校】への接続を意識した指導に生かすことができた。また，CAN-DOリスト（ふり返り）の活用と活用の累積の延長線上にある中学校での学習を，児童自身に具体的にイメージさせるために，高萩市立高萩中学校１年生がCAN-DOリスト【中学校】を基に取り組んだ「タスク（課題）を用いた自己表現

資料２　CAN-DOリスト（ふり返り）



OHTA WANT-TO-DO LIST　5th GRADE

単元	コミュニケーションの場面		ふり返り
Lesson1 Hello!	・名前をたずねたり，答えたりする。	What's your name? My name is ~.	4 3 2 1
	・簡単なあいさつをかわす。	Good morning.など	4 3 2 1
Lesson2 I'm happy.	・相手の気持ちをたずねる。	How are you?	4 3 2 1
	・表情やジェスチャーをつけて，自分の気持ちを伝える。	I'm ~, thank you.	4 3 2 1
Lesson3 How many?	・１～１０までの数を言う。	one,two,three, ~ ten	4 3 2 1
	・１１～２０までの数を言う。	eleven,twelve,~twenty	4 3 2 1
	・２１～３０までの数を言う。	twenty-one, ~thirty	4 3 2 1
	・いくつあるか数をたずねる。	How many ~?	4 3 2 1
Lesson4 I like apples.	・自分の好きなものやきらいなものを伝える。	I like~. / I don't like~	4 3 2 1
	・相手の好きなものをたずねたり，はい，いいえで答えたりする。	Do you like ~? Yes,I do./No,I don't.	4 3 2 1
Lesson5 What do you like?	・様々な色や形の名前を言う。	circle,triangle,star など	4 3 2 1
	・何が好きかをたずねたり，答えたりする。	What ~ do you like? I like ~.	4 3 2 1
Lesson 6 What do you want?	・アルファベットの大文字を見て発音する。	ABCDEFGHIJKLMNOP QRSTUVWXYZ	4 3 2 1
	・欲しいものをたずねたり，答えたりする。	What do you want? ~, please.	4 3 2 1
Lesson 7 What's this?	・身のまわりの物についてそれが何かとたずねたり，答えたりする。	What's this? It's ~.	4 3 2 1
Lesson 8 I study Japanese.	・教科を言う。	math, science, など	4 3 2 1
	・曜日を言う。	Sunday ~ Saturday	4 3 2 1
	・時間割についてたずねたり，答えたりする。	What do you study on~? I study ~.	4 3 2 1
Lesson 9 What would you like?	・食べ物の名前を言う。	salad, pizza, juice, bread	4 3 2 1
	・ていねいな言い方で，相手が欲しいものをたずねたり，答えたりする。	What would you like? I'd like ~.	4 3 2 1

4 やったね！　3 まあまあ！　2 もうひといき！　1 次はがんばるぞ！

活動」の授業の様子を映像で視聴させた。「中学生も小学生と同じような勉強をしている。少し安心した。」，「もっとたくさん話しているし，英語も上手に書けている。あんなふうにできるようになりたい。」と感想を話し合っている児童が多かった。このように，小・中を接続するCAN-DOリストを活用した学習の様子をイメージできたことは，児童の学習意欲を更に高めることにつながったと考える。

(2) 中学校への円滑な接続を意識した外国語活動の工夫

ア　CAN-DOリスト【中学校】第１学年「話すこと」への接続を意識した発表による自己表現活動

CAN-DOリスト【中学校】第１学年における「話すこと」では，「原稿を見ずに絵を見せるなどして，人や物について20語程度で紹介することができる。」という学習到達目標が設定されている。この学習到達目標を実現できる生徒を育てるために，小学校において発表による自己表現活動を外国語活動の工夫と位置付け，実践した。資料３及び４は，実践の画像記録であり，作成したオリジナルメニューを，自分たちの気持ちや考えを交えながら児童が英語で発表している様子である。

自己表現活動をする前と後では，児童の表情と外国語活動に対する意識の変化がうかがえる。発表前は，緊張によりこわばっていた表情から発表が進むにつれて徐々に笑顔があふれた。ほぼ全員の児童が，ゲームよりも発表や友達とコミュニケーション活動ができたことの方が楽しかったと感想を述べていた。

資料５は，オリジナルメニューをまとめたメニューカードである。メニューのネーミングや説明，描かれている絵からも，友達と楽しそうに自分たちの考えや気持ちを表現しようとしている様子や工夫がうかがえる。

これらのことから，児童が生活している「筑西市」の特産品を扱ったオリジナルメニューづくりをグループで実施したことは，児童同士の協働的な学び合いや親和的関係の醸成に役立ち，社会科との

資料３　児童の発表の様子①

資料４　児童の発表の様子②

資料５　メニューカード

連携が図られ，学習の充実につながったと考える。

「英語で発表や会話ができた。」と児童自身がコミュニケーション活動から獲得した成功体験が，「もっと英語を使ってみたい，英語でできるようになりたい」という意欲へと高まり，中学校の学びにつながると考える。

イ　CAN-DOリスト【中学校】第１学年「話すこと」への接続を意識したタスク（課題）活動

CAN-DOリスト【中学校】第１学年における「話すこと」では，「相手に対して即興的に，氏名や職業，年齢などについて質問することができる。」という学習到達目標が設定されている。この学習到達目標を実現できる生徒を育てるために，小学校においてタスク（課題）活動を外国語活動の工夫として実践した。資料６は，「筑西グルメフェスタを開こう」というタスクを設定し教室内にグループごとに開いた模擬レストランで，英語を使って店内での会話に意欲的に取り組む児童の様子である。

資料６　筑西グルメフェスタの様子

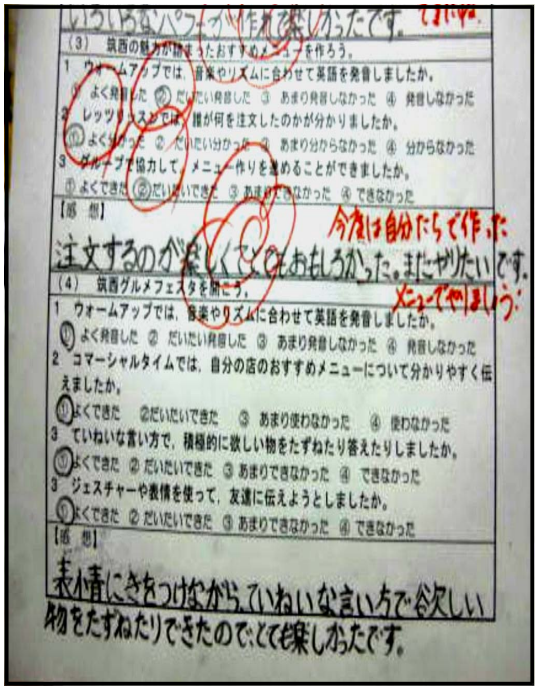
「筑西グルメフェスタを開こう」というタスク（課題）を設定し，模擬レストランの開店と英語による注文や接客など具体的な目的をもたせたことで，児童自身が思考し，意欲的に表現する姿が見られた。本時の活動は，中学校で身に付ける「初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話す」ことへの円滑な接続に役立つと考える。

６　成果と課題

(1) 成果

資料７は，活動後の児童の感想である。タスク（課題）を設定し，具体的な目的をもって活動させることは，意欲的に自己表現しようとする児童の姿に迫る有効な手立てである。英語での伝え方が分かり，会話を用いたコミュニケーション活動が楽しいと答えた児童が増えたことは，コミュニケーション活動の基礎を養う中学校への円滑な接続につながると考える。

資料７　児童の感想から



(2) 課題

児童が，「英語で食べ物の名前を言うことができるようになった。」等，外国語活動を振り返り自分の成長を確認できたことを，CAN-DOリスト（ふり返り）を活用し，保護者等へ周知していく。

【授業研究２】（中学校第１学年）

CAN-DOリストを活用し，表現活動を中心に英語を使う力を育てる外国語（英語）科学習指導の工夫
－小学校との円滑な接続を図った言語活動を通して－

１　単元名　　PROGRAM５　国際フードフェスティバル　(SUNSHINE ENGLISH COURSE 1)

２　単元の目標

(1) 言語活動を積極的に行い，相手とコミュニケーションを図ろうとする。
（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）

(2) 身の回りの物を紹介したり，説明したりすることができる。行きたい場所について，話したり，質問したりすることができる。（外国語表現の能力）

(3) 本文に書かれた海外の食べ物や家族に関する内容を理解することができる。
（外国語理解の能力）

(4) this is, that is, where, he, she の運用についての知識を身に付けている。
（言語や文化についての知識・理解）

３　単元の指導について

(1) 教材観

本単元は，フードフェスティバルを通して，食に関する異文化理解を促し，外国の文化について英語で表現することをねらいとした言語活動で構成されている。言語材料として，this, that, where, he, she を用いて，言語活動の充実を図る。

本単元末では，旅行代理店でのコミュニケーション場面を設定し，「身近な人を海外旅行に連れて行こう！」という言語活動を行う。この言語活動は，小・中・高等学校の学びを円滑に接続するCAN-DOリスト（以下「CAN-DOリスト」とする）の「話すこと」における，中学校第１学年のレベル３「相手に対して，即興的に質問することができる（それに対して答えることができる）」につながる活動であると同時に，外国語活動における，CAN-DOリスト小学校第６学年の「聞くこと」のレベル５「相手が行きたい国がどこかを聞いている」，「話すこと」のレベル５「相手に行きたい国をたずねたり，答えたりする」を受けた言語活動としての位置付けである。CAN-DOリストの活用を通して，外国語活動との円滑な接続を図る学習指導を工夫していく。

(2) 生徒の実態

親和的な関係づくりを基盤とした学級経営を進めてきたため，男女問わず生徒間の仲がよく，ペア活動やグループ活動に意欲的に取り組むことができる。普段の授業においても，意図的にペアを組ませており，英語が得意だと感じている生徒とそうではない生徒の意識の隔たり解消にも取り組んでいる。学習の過程で疑問が生じた場合に，隣席の友達にたずねたり，教え合ったりする雰囲気も醸成されてきた。

英語の授業を楽しみにしている生徒が多い一方で，生徒一人一人に目を向けると，学習を通して何を身に付けたいか，英語で何ができるようになりたいかといった目標

をもたないまま授業に参加している生徒が見受けられる。自分にとっての明確な学習目標が設定できていないため，コミュニケーション活動に取り組む理由が不鮮明となってしまっている。始業時において学習のゴールや内容を提示しても形式的な提示となってしまい，生徒の学習意欲を向上させる手立てとして機能していない点が原因の一つとして挙げられる。そこで，CAN-DOリストを活用し，学習到達目標の明確化と共有化を図る。また，外国語活動を生かした言語活動を学習指導の工夫として実践し，英語で何ができるようになったかを生徒自身に体感させながら，「英語を使う力」を育てたいと考える。

(3) 主題に迫るための手立て

ア　CAN-DOリストの活用

本単元の授業を始めるに当たり，CAN-DOリストを生徒に提示し，外国語活動で行った言語活動が中学校につながっていることを意識させて授業を行っていく。この単元では，外国語活動との円滑な接続を踏まえ，CAN-DOリスト【小学校】の６年生における「話すこと」の内容を受けて授業を行う。具体的には，レベル４「相手に目的地への行き方をたずねたり，答えたりする」，レベル５「相手に行きたい国をたずねたり，答えたりする」，「様々な国の名前を言う」を受けて授業を構成しており，小学校での外国語活動と中学校における学習到達目標への系統性を意識した学習指導を行う。また，自己評価カード「学習カルテ」を授業時に生徒が使用するようにする。学習カルテは，生徒自身が自分の学びを評価していく中で，教師が必要に応じて学習のアドバイスなどを行うものである。本時のCAN-DOリストを生徒自らが記入できるようになっており，授業後にCAN-DOリストに基づき，授業内容がよく分かったかどうかをＡ～Ｄ（「Ａ：よく分かった」～「Ｄ：よく分からない」）の４段階で自己評価する。授業後に学習カルテを確認し，自己評価がＣ，Ｄの生徒には，アドバイスの提示や机間指導の配慮を通して個別に支援する。

イ　小学校との円滑な接続を意識した言語活動

中学校の単元計画でも，外国語活動で行われていた「タスク（課題）を設定し，自己表現力を培うための活動」を踏襲した学習指導を行うことで，生徒自身がタスク（課題）に向けて，毎時間の学習に取り組めていることを教師が理解させながら，学習過程を重視した学びの充実が図れるように指導していく。そのために，授業開始のガイダンス時には，単元の最後で行うタスク活動をあらかじめ提示することで，生徒の学ぶ意欲を高め，単元終了時の到達目標に向けて学習指導が行われていることを意識させる。本単元では，単元計画の最後に「身近な人を海外旅行に連れて行こう」という旅行で行きたい場所を聞いたり答えたりするタスクを設定した。

外国語活動で使用していたデジタル教科書を適宜用いることで，ＩＣＴを活用した円滑な接続を図る学習指導の工夫を進めていく。CAN-DOリストからも読み取れるように，外国語活動で慣れ親しんだ表現の多くは，中学校の第１学年で学習する表現として指導することとなる。この慣れ親しんだ表現を生徒と確認しながら，特に，言語材料の導入の場面でＩＣＴを活用した授業を展開していく。活用するデジタル教科書のコンテンツは，チャンツ，ロールプレイングといった動画コンテンツなど生徒の興味や関心も高められるものとなっている。「小学校の時に楽しく活動した

ことがある。」という感覚をもちながら授業に臨めることで，英語に対する抵抗感を減らし，楽しく学びながら，自信をもって言語活動に取り組める授業づくりを進めていく。

また，筑西市立大田小学校第５学年の外国語活動の様子を生徒に視聴させ，CAN-DOリストを通した英語の授業と外国語活動の内容的なつながりをイメージさせる。生徒が外国語活動とのつながりを認識することで，英語学習への意欲が高まり，中学校での学習を抵抗なく進めることができるようになると考える。

(4) 指導計画（９時間取り扱い）

時	本時の目標	学習内容・活動	関	表	理	言	方法	評　価　規　準
1	本単元の内容や身に付ける技能を知る。	・ガイダンス ・副教材の作成	○				副教材 ノート	本課の学習の見通しをもつ。
2	this，thatの用法を理解し，運用する。	身近な物を指示する言語活動を行う。	○			○	ワークシート，観察	this,thatを活用することができる。
3	本文を音読し，内容を理解する。	本文を音読したり，内容を読み取る。			○	○	後日ペーパーテスト	本文を音読し，内容を理解することができる。
4	whereの用法を理解し運用する。	絵を用いて場所を聞いたり答えたりする。	○			○	ワークシート，観察	whereを活用することができる。
5 本時	whereを用いて質問したり，答えたりする。	行きたい場所をたずね人気の場所を決める。	○	○			ワークシート，観察	whereを用いて質問したり，答えたりできる。
6	本文を音読し，内容を理解する。	本文を音読したり，内容を読み取る。			○	○	後日ペーパーテスト	本文を音読し，内容を理解することができる。
7	he，sheを用いて話そうとする。	he，sheを用いた言語活動を行う。	○			○	ワークシート，観察	he，sheを用いて話すことができる。
8	本文を音読し，内容を理解する。	本文を音読したり，内容を読み取る。			○	○	ペーパーテスト	本文を音読し，内容を理解することができる。
9	既習事項を用いて，行きたい場所や理由を聞いたり，伝えたりする。	海外旅行で行きたい場所，身近な人を連れて行きたい場所を伝える。	○	○			ワークシート，観察	既習事項を用い，行きたい場所と理由を聞いたり伝えたりすることができる。

４　本時の指導

(1) 目標

○　言語活動を積極的に行い，英語を用いて，自分が行きたい国について会話しようとしている。　（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）

○　whereを用いて，質問したり，答えたりできる。　（外国語表現の能力）

(2) 準備・資料

自作補助教材，ワークシート（学習カルテ），ＴＶモニター，ＰＣ，デジタル教科書（Hi,friends!２）

(3) 展開

学習活動・内容	指導と評価
1　副教材を用いてウォームアップ，帯活動を行う。 (1)　THE CHANTS (2)　LET'S TALK	・短い時間でテンポよく，できるだけ多くの英語を話せるように，タイマーを用いて指導する。 ・活動が滞っているペアには，机間指導を行い，学

(3)　SUPER INPUT	習ペアや教師が範読を示す。
2　本時の学習内容を確認する。 相手に行きたい場所をたずねよう。 本時の学習内容を，学習カルテに書く。	・導入において生徒の関心を高めるとともに，視覚的な理解も促すために，映像等を活用する。 ・文法を確認するために，デジタル教科書を活用し視覚的な面からもアプローチすることで，理解を促す。
3　オーラルイントロダクションを聞く。 デジタル教科書（Hi, Friends!）を用いて，本日の内容を導入する。	・本時の表現（Where do you...?）へとつなげるために，デジタル教科書を用いることで，生徒とのインタラクション（高等学校への円滑な接続も意識）の中からWhere is ？を導き出したい。
4　言語活動「旅行は，どこに行きたい」を行う。 (1)　自分の行きたい場所と理由を選ぶ。 e.g. I want to go to Italy. Because I want to eat pizza.	・未修語（国名や表現）や生徒にとって難しいと想定される語彙が活動の妨げとならないために，活動に必要な語の導入を手際よく行う。特に，want to, why, becauseについては，生徒の活動に興味をもたせるため，説明を行わず導入する。
(2)　教師のデモンストレーションを見る。	・日本語は使わず，モデルの会話を参考に英語でやり取りするよう指示し，机間指導する。
(3)　友達にどこに行きたいかを聞きメモを取る。 A: Hi, where do you want to go? B: I want to go to Italy. A: Why do you want to go? B: Because I want to eat Italian foods.	・活動に自信をもって取り組めるよう，はじめに，ペアでインタビューの仕方を確認する。ペアで手順を確認するように指示する。 ・既習事項の活用場面のため，数字や複数形は，英語で話すように指導する。
(4) グループでインタビューの結果を共有する。	評　言語活動に積極的に参加し，英語を用いて行きたい国について会話しようとしている。 （コミュニケーションへの関心・意欲・態度）
(5) グループで，このクラスの人気の旅行場所を報告する。	評　Whereを用いて，質問したり答えたりできる。 （外国語表現の能力）
5　本時のまとめを行う。	・本時で学んだ英文を一文書くよう助言する。
6　学習カルテの記入を行う。	・本時の学習を振り返り，学びの内在化と定着を図るため，できるだけ詳細なコメントを記入する。

5　授業の分析と考察

(1) CAN-DOリストの活用

本時の開始時にCAN-DOリストを提示したことで，生徒は本時での目指すべき姿を明確にイメージして活動に取り組むことができた。学習カルテ（自己評価カード）でも，Ａを記した生徒は21人，Ｂと記した生徒は４人で，ＣとＤを記した生徒はいなかった。どの生徒も本時の学習到達目標を理解して，言語活動に参加することで本時の内容を理解することができたと考える。

授業後に実施した意識調査（平成27年９月14日実施，高萩市立高萩中学校第１学年１組，25人）では，「外国語活動と中学校の英語の授業がつながっていることを意識できたか。」という質問に対して，「そう思う」は13人，「まあまあ思う」は８人，「あまり思わない」は４人，「思わない」は０人という結果であった。「そう思う」，「まあまあ思う」を合わせると８割以上の生徒が肯定的な回答をしていた。また，「そう思う」，「まあまあ思う」と答えた生徒に対して，「外国語活動と中学校の英

語の授業のつながりを理解することは，自分の英語学習に役立つと思うか。」という質問に対して，「そう思う」は13人，「まあまあ思う」は12人となり，「あまり思わない」，「思わない」と回答した生徒はいなかった。このことから，教師がCAN-DOリストを提示し，説明することで，生徒は外国語活動と中学校での学習内容に系統性を見いだし，意識して学習に取り組めるようになったと考える。また，外国語活動と外国語（英語）の学習内容が系統的につながっているのを意識することが，生徒自身の英語学習をよりよいものにすると感じていることも把握できた。これらのことから，CAN-DOリストの活用は，小・中学校の学習指導の円滑な接続の手立てになると考える。

(2) 小学校外国語活動との円滑な接続を図る言語活動

タスク活動を単元計画の最後に設定したことで，生徒が習得した言語を活用する場面を設定できた。実際の授業では，期間が空いた後で実施することとなったが，生徒は言語を習得した際の授業内容をよく覚えていた。資料１は，タスク活動の様子である。中には，表現の使用が困難そうな生徒もいたが，どの生徒も積極的に授業に参加していた。学習カルテの自己評価ではＡは23人，Ｂは６人で，ＣとＤはいなかった。小・中学校で系統立てたタスク活動は，小・中学校を円滑に接続し，英語を使う力を育てる上で効果的であったと考える。

資料２は学習カルテに記された生徒の意見である。外国語活動で使用するデジタル教科書を用いたことは，言語材料に対する生徒の抵抗感を減らす上で効果的であり，自然な流れの授業展開に役立った。慣れ親しんだはずの内容を覚えていない生徒もいたが，友達から「使ったことがある。」という反応が増えると真剣な表情でデジタル教科書の画面を見ながら活動に取り組んでいた。資料３は，デジタル教科書の使用場面である。授業後に実施した意識調査でも「デジタル教科書（Hi, friends!）の使用で外国語活動の内容を思い出すか。」という質問に対して「そう思う」が11人，「まあまあ思う」が11人，「あまり思わない」が３人，「思わない」が０人という結果であった。このことから，約９割の生徒が外国語活動の授業を思い出して授業に参加し

資料１ タスク活動「海外旅行へ身近な人を連れていこう」の様子

資料２ 学習カルテの生徒の意見

【自己評価でＡと記入した生徒】
- 最後はワークシートを見ないで，自分の言いたいことが伝えられて良かった。
- 店員の仕事をしっかりと果たせた。チケットを渡すまでの手順や英文をきちんと頭に入れておくことが大切だと思った。

【自己評価でＢと記入した生徒】
- ワークシートを見ずに言うことができなかった。もっと覚えて使えるようにしていきたい。
- 使い方が分かり，やり取りができて楽しかった。
- 最初は，何を言っているのか分からなかったが，話し続けると分かるようになってきた。

資料３ Hi, friends! デジタル教科書使用の様子

ていたことが分かった。「デジタル教科書（Hi, friends!）を使用すると授業が分かりやすくなるか。」という質問に対して，「そう思う」は13人，「まあまあ思う」は８人，「あまり思わない」は４人，「思わない」は０人という結果であった。８割以上の生徒が，デジタル教科書（Hi, friends!）の使用により，授業が分かりやすくなると感じていることが明らかとなった。外国語活動で取り扱った内容を取り入れた授業を展開することで，生徒は既習の内容を振り返り，中学校での言語活動への系統性を確認することができたと考える。そのことにより，学習への意欲も高まることが明らかになった。小学校外国語活動で利用したデジタル教科書と小・中学校を通じて学びの充実を図るタスク活動の実践は，生徒が英語で自己表現できる力を育てる手立てとして，有効に機能すると考える。

資料４は，外国語活動の授業の様子を生徒に見せた後のアンケートの感想である。「外国語活動と中学校の学習内容は似ているか。」という質問に対して，「そう思う」は４人，「まあまあ思う」は14人，「あまり思わない」は７人，「思わない」は０人という結果であった。「そう思う」，「まあまあ思う」を合わせると約７割の生徒が肯定的に回答し，外国語活動と授業の系統性を感じていたことがうかがえる。

資料４　小学校外国語活動への生徒の感想

【外国語活動の内容について】
- 授業の流れが中学校と似ていて，授業がつながっていることが分かった。中学校の授業でやっていることと同じような授業をしていると思った。
- 自分たちが過去にやった内容もあった。それが今の勉強でも役に立っていると感じた。
- ユーモアもあって，みんなが聞きやすいグループでのスピーチを行っていた。

【外国語活動の生徒の様子について】
- あいさつの時，進んで自分から言ったり，授業でやったことを生かして小さな模擬店でも店員もお客さんも英語で積極的に活動したりしていた。
- 小学生は英語で書かないのに，上手に発表していた。

６　成果と課題

(1) 成果

外国語活動との円滑な接続を実現するため，CAN-DOリスト【小学校】を中学校第１学年の生徒に提示することで，生徒は学習している言語材料が，小学校時代に慣れ親しんだものであることを理解できた。CAN-DOリストを活用して，外国語活動を生かした言語活動を展開することは，生徒自らの英語学習をより意欲的に進める指導を可能にした。

中学校の単元計画でもタスク活動を設定し，外国語活動の成果を踏まえた学習指導を行うことは，生徒が小・中学校でつながる学習の系統性を認識し，生徒自身が単元計画におけるタスクに向けて，表現活動を中心に「英語を使う力」を身に付ける上で役立った。小学校のタスクを用いた表現活動で培われた素地に，小学校と系統立てたタスク活動を実施することで，生徒の「英語を使う力」を育てられると考える。また，授業の導入時における小学校外国語活動用デジタル教科書の活用は，外国語活動の学びの振り返りと中学校での学習の系統性を認識させる上で役立った。この活用は，生徒の学習目標への理解を深め，自信をもって言語活動に取り組む上で有効であった。

(2) 課題

中学校上級学年，高等学校への円滑な接続へとつなげるために，CAN-DOリストを活用した段階的なインタラクションやディスカッションを含めた指導について研究する。

【授業研究３】（中学校第３学年）

CAN-DOリストを活用し，表現活動を中心に英語を使う力を育てる外国語（英語）科学習指導の工夫
－高等学校への円滑な接続を意識したインタラクティブ・アクティビティの指導を通して－

１　単元名　　My Project７　有名人にインタビューしよう
（SUNSHINE ENGLISH COURSE ３）

２　単元の目標

○　友達と協力しながら積極的にスキット活動に取り組もうとする。
（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）

○　マッピングを基にして，インタビューの原稿を論理的な構成で作成することができる。また，それを使って発表することができる。（外国語表現の能力）

○　芸能人やスポーツ選手に対するインタビューのモデル文を聞いたり，読んだりしてその内容を正しく理解することができる。（外国語理解の能力）

○　既習表現の文構造・意味・用法について理解している。
（言語や文化についての知識・理解）

３　単元の指導について

(1) 教材観

本単元は，有名人（アグネス・チャンさん，イチロー選手）へのインタビュー記事を用いて質疑応答や口頭発表の練習を行い，その後相手を想定してインタビューの内容について原稿を作成し，発表することをねらいとしている。原稿作成の段階では主に「読む」，「書く」活動を行い，発表の段階では「話す」，「聞く」活動を行うことから，中学校学習指導要領の内容（１）に示されている４領域を総合的に指導していくことができる。今までに学習した事項を統合的に活用する必要があるため，既習表現の定着を図るために適した題材であると考える。

(2) 生徒の実態

本学級には，前向きに学習に取り組む生徒が多く，意欲的にコミュニケーションを図る雰囲気がある。自分の考えや思いを発表することにちゅうちょしがちな生徒も見られるが，協力しながら活動に取り組むことができる。４技能に関して，「話す力」と「書く力」を更に伸ばしたいと感じている生徒が多い。また，「話し方が分からない」，「もっと話す活動をしてみたい」など，英語表現技能に関する悩みや英語を活用する場面設定の要望もあり，英語を用いた表現活動の設定が不十分であることが課題となっている。そこで，本単元では，授業開始時に帯活動を設定し，英語を用いた双方向的なコミュニケーション活動を「インタラクティブ・アクティビティ」と位置付け継続的に実施する。また，場面に応じてペア活動を行い，生徒同士が学び合う姿勢を大切にし，スキットの原稿作成や発表を通して，英語を使う力の向上を図る。

(3) 主題に迫るための手立て

ア　CAN-DOリストの活用

小・中・高等学校の学びを円滑に接続するCAN-DOリスト（以下「CAN-DOリスト」とする）を提示し，中学校第３学年の「話すこと」に注目させることで，表現活動に対する目的意識を高める。また，高等学校の「話すこと」にも注目させ，自分たちが行うスキットやインタラクティブ・アクティビティが，高等学校の英語学習で行われるプレゼンテーションやディベートにつながる活動であることを理解させる。

イ　高等学校への円滑な接続を意識したインタラクティブ・アクティビティ

高等学校では，身近な話題や社会的な話題，あるいは相手の意見に対して自分の考えを即興で述べる力が必要になる。そのため，授業の開始時にインタラクティブ・アクティビティの時間を帯活動として設定し，積極的に英語を使おうとする意欲や，表現力の向上を図る。また，自分の意見や考えを整理し，原稿にまとめてから口頭発表を行うスキットを取り入れることで，プレゼンテーションやディベートで必要になってくる意見や考えを論理立てて話す技能の向上を図る。

(4) 指導計画（４時間取り扱い）

時	本時の目標	学習内容・活動	関	表	理	言	方法	評　価　規　準
毎時	インタラクティブ・タイム（帯活動）							
1	芸能人やスポーツ選手に対するインタビューのモデル文を読んで，その内容を理解する。	インタビューモデル文の聞き取りや読み取りを行う。			○		観察 インタビューテスト ワークシート	スポーツ選手等へのインタビューのモデル文を読み，その内容を正しく理解することができる。
2	相手を想定して質問内容を考え，既習表現を用いてスキットの原稿を作る。 既習表現の文構造・意味・用法について理解を深める。	既習表現を用いてスキットの原稿を作る。		○		○	観察 スキット ワークシート	相手を想定した質問を考え，既習表現を用いたスキット原稿を作ることができる。 既習表現の文構造・意味・用法の理解を深めることができる。
3 本時	友達と協力しながら積極的にスキットの練習に取り組もうとする。 マッピングを基に，インタビューの原稿を論理的な構成で作成する。	スキットの練習に取り組む。 マッピングを用い，インタビューの原稿を作成する。	○	○			観察 スキット マッピング インタビュー原稿	友達と協力しながら積極的にスキットの練習に取り組もうとしている。 マッピングを基に，インタビュー原稿を論理的な構成で作成できる。
4	ペアで積極的にスキットに取り組む。 ジェスチャーを活用したり，相づちを打ったりするなど，工夫して役割を演じる。	ペアでスキットに取り組む。 ジェスチャーや相づちを打ったりするなどして役割を演じる。	○	○			観察 発表	ペアで積極的にスキットに取り組もうとしている。 ジェスチャーや相づちを打ったりして，役割を演じることができる。

４　本時の指導

(1) 目標

○　友達と協力しながら積極的にスキットの練習に取り組もうとしている。

（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）

○　マッピングを基に，インタビューの原稿を論理的な構成で作成できる。

（外国語表現の能力）

(2) 準備・資料

インタラクティブカード，マッピングシート，インタビューシート（原稿）

(3) 展開

学習活動・内容	指導と評価
1　英語で挨拶を交わす。（一斉） T: Good morning, ～ . S: Good morning, ～ .	・英語で挨拶を交わしたり，天気や曜日，月日などの確認をしたりすることで，コミュニケーション活動に向けての雰囲気作りをする。
2　インタラクティブタイムを行う。（グループ） ・３～４人のグループを作り，与えられたトピックについて４分間会話する。	・間違いを恐れず，積極的に発言する雰囲気を大切にできるよう留意する。 ・インタラクティブカードを配付し，ヒントとして使うように伝える。
S1: What kind of music do you like the best? S2: I like rock music because it's so cool.　How about you? S1: I like J-pop music the best. My favorite singer is Arashi.	・ただ意見を述べるだけでなく，理由も付け加えることで，より論理的な表現ができるよう助言する。 ・相手が話した内容に対して，質問，つなぎ言葉，相づちなどを用いて対話を発展していけるよう助言する。
3　本時の学習課題を知る。 インタビュー原稿を完成し，発表に向けてペアで練習しよう。	・本時の学習課題と授業の流れを提示することにより，見通しをもって学習に取り組めるようにする。
4　インタビュー原稿を完成する。（ペア） (1)　前時に行ったマッピングを見ながら表現や構成についての確認を行い，原稿を完成させる。 (2)　原稿が完成したら，黒板のwaiting欄にネームカードを貼る。順にＡＬＴにチェックをしてもらい，修正箇所があれば修正する。 (3)　修正後の原稿をＪＴＥに提出し，内容の構成をチェックしてもらう。	・分かりやすく一貫性のある構成（漠然とした質問→具体的な質問）を意識して原稿を作成できるよう助言する。 ・ＡＬＴは完成した生徒の原稿をチェックし，次時の発表に向けて助言をする。 ・ＪＴＥは机間指導を行い，完成していないペアを個別に支援する。 ・ＪＴＥは修正後の原稿をチェックし，分かりやすい点について称賛する。

	評　マッピングを基に，インタビューの原稿を論理的な構成で作成できる。（外国語表現の能力）
5　発表へ向けた練習を行う。（ペア） ・自分たちが作った台本を基に練習を行う。 S1: Are you from Japan? S2: Yes, I am.　But I live in Italy now.	・机間指導を行い，戸惑っているペアへ個別に発音の模範を示す等の支援をする。 評　友達と協力しながら積極的にスキットの練習に取り組もうとしている。（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）
6　本時のまとめと自己評価をする。 ・自己評価を記入する。	・本時の学習で身に付けたことや気付いたことを，次時の活動に生かしていけるように助言する。

5　授業の分析と考察

(1) CAN-DOリストの活用

ア　CAN-DOリスト【中学校】の活用

生徒は，本単元の開始時に，自分たちが目指す到達目標を明確に示されたことで，それぞれの活動に目的意識をもって，意欲的に取り組む姿が見られた。資料１に示す授業後の生徒の感想からは，「～できた。」という肯定的な感想が多く，また，毎授業後に実施した自己評価においても，自由記述の欄に「～できた」という記述が増えた。これらのことから，多くの生徒が達成感を味わうことができたことがうかがえる。この達成感の積み重ねが自信につながり，更に英語を学んでみたいという意欲を向上させると考える。

資料１　授業後の生徒の感想より

・インタラクティブタイムで自分の考えを伝えることができた。
・友だちの意見に対して，自分の考えを伝えることができた。
・相づちをしながら相手の話を聞くことができた。

イ　CAN-DOリスト【高等学校】の活用

高等学校での学習到達目標を提示し，中・高等学校の学習内容の系統性を知ることで，自分たちが現在行っている活動の重要性を意識し学習を進めることができた。

また，県立水戸第二高等学校第２学年の授業の様子を実際に視聴した。資料２は，視聴後に寄せられた生徒の感想をまとめたものである。感想に書かれているように，多くの生徒が将来の具体的なイメージをもつことで，今後の学習に対する意欲を高めることができた。このことからも，CAN-DOリストの活用は，生徒に高等学校へつながる学習や目指すべき自分の

資料２　高等学校の授業を視聴した生徒の感想より

・難しい英語を使っていてすごいと思う。たくさん英語が話せるようになりたい。
・中学校で習っている表現がいくつもあって自分が勉強していることが高校で役立つと思った。アイコンタクトも上手だ。

姿の具体的なイメージを抱かせることができ，更なる学習に対する意欲を高めるためにも効果的な手立てであると考える。

(2) 高等学校への円滑な接続を意識したインタラクティブ・アクティビティ

ア　インタラクティブ・アクティビティの実践

活動の際には，資料３に示す「活動の３ポイント」と称した「Listen Carefully（相手の話をしっかり聞く）」，「Clear Voice（はっきりとした声で，相手に伝える）」，「Eye Contact（相手を見て話す）」を意識して活動させた。その結果，相手の発言に対し相づちを打ったり，相手の言葉を繰り返してみたりする様子が多く見られるようになり，相手の存在や意見を受け入れながら自分の考えを述べることができるようになった。このような習慣は，高等学校で行われるプレゼンテーションやディベートを支える土台につながっていくと考える。

資料３　活動の３ポイント

また，インタラクティブ・アクティビティを帯活動として設定することは，毎時間，既習表現を活用する場面を継続的に確保することにつながった。取組を重ねるごとに英語を話すことに対して，生徒が抱えていた抵抗感も薄まり，英語を使って積極的に表現しようとする姿が見られるようになった。

活動時には，資料４に示すインタラクティブ・カードを全員に配布した。

資料４　インタラクティブ・カード

〈表面〉

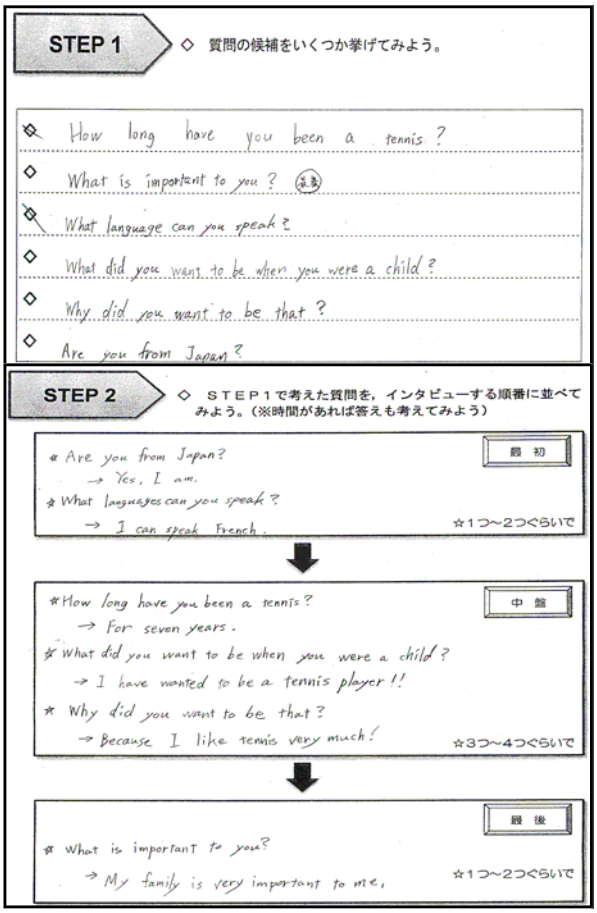
〈裏面〉

インタラクティブ・カードをヒントに，生徒たちの力で会話が進むように工夫したことで，生徒は，相づちや聞き返す表現などを自主的に使うようになり，コミュニケーション・スキルを身に付けることができた。更に，グループでの協同的活動により，友達のコミュニケーション・スキルをモデルにしたり，相互に助言し合ったりする活動の場面が頻繁に見られるようになった。目的に応じた英語を使う力を，グループ内コミュニケーションを通して育て合っていると考える。

イ　マッピングを活用したスキットの原稿作成と発表

スキットの原稿作成に当たっては，資料５に示すマッピングの手法を用いたステップで進めた。STEP１では，相手に対する質問を思い浮かぶままに記述し，STEP２では，実際のインタビューを想定した会話の流れでマッピングを行う。これらを反映させた原稿としてインタビューシートをまとめた。マッピングを取り入れた結果，生徒たちは自分の考えを整理し，内容の構成に注意しながら原稿を作成することができた。「インタビューの原稿作りをしてから，相手に伝わりやすい構成を意識するようになった。」という感想も多く聞かれた。このプロセスの繰り返しが，学びの充実となり，論理的に思考して表現する力，英語を使う力の向上につながり，高等学校での英語学習に接続していくと考える。

資料５　マッピングの手法



６　成果と課題

(1) 成果

CAN-DOリストを提示し，生徒が関連性を意識して学習に取り組むことは，目的意識をもつことや学習意欲の向上を図るために有効な手立てとなった。また，インタラクティブ・アクティビティ等を取り入れ，英語を使って表現する場面を設定し，英語を使う必然性と頻度を増やしたことが，英語を使おうとする意欲の向上につながった。

更に，相手に分かりやすく伝える表現方法を学んだことや友達との会話で身に付けた表現を活用することで，即興的に英語を運用する力が向上し，英語を使う力の育成につながったと考える。

(2) 課題

今後は，インタラクティブ・アクティビティに対する適切な評価を行い，生徒にフィードバックする手段や方法を構築していく。

【授業研究４】（高等学校第２学年）

CAN-DOリストを活用し，表現活動を中心に英語を使う力を育てる外国語（英語）科学習指導の工夫
－中学校との円滑な接続を図ったプレゼンテーションの指導を通して－

１　単元名　Lesson６　Shedding Tears for My Patients
（PRO-VISION English CommunicationⅡ）

２　単元の目標

○　ペアワークやグループワークに積極的に参加し，相手の意見を尊重しながら自分の意見を主体的に伝えようとする。　（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）

○　自分のロールモデルについて説明することができる。また，質問をしたり相手の質問に答えたりすることができる。　（外国語表現の能力）

○　将来の生き方に関する英文を読み，未知の語の意味を推測しながらその概要を理解することができる。また，相手の発表を聞いて要点を理解することができる。
（外国語理解の能力）

○　未来表現，ifのない仮定法，さまざまな動名詞の用法について理解している。
（言語や文化についての知識・理解）

３　単元の指導について

(1) 教材観

本単元は，小児がんの専門医である細谷亮太氏が，病気の子どもたちから人間の素晴らしさを教えられ，自分の存在意義や生きがいを見付けた経緯について書かれている。細谷氏の生き方から，今後の生き方について，生徒自身が意見を話したり書いたりする表現活動（personalization）まで発展させることのできる教材である。

表現力を育てる授業の工夫として，ロールモデルのプレゼンテーションを設定する（ロールモデルとは，「将来において目指したいと思う，模範となる存在であり，そのスキルや具体的な行動を学んだり模倣したりする対象となる人材のこと」厚生労働省「メンター制度導入・ロールモデル普及マニュアル」）。生徒は，１年時の道徳でまとめた「在り方・生き方を考える～壁を乗り越えた人たち」の資料を活用することで，具体的で分かりやすいプレゼンテーションが可能となり，その後の質疑応答や意見交換の内容を深めることができると考える。自分の将来について考えていることを伝え合うことで，英語を使って思いを伝え合うことの喜びを生徒同士で共有させたい。

(2) 生徒の実態

本学級は，明るく積極的に授業に臨もうとする雰囲気がある文系のクラスであり，将来，語学や異文化理解，国際関係の仕事を志す生徒が５割以上在籍する。多くの生徒が中学校で双方向的な言語活動を経験し，英語学習に関する意識調査（平成27年６月８日実施，第２学年２組41人）においては，30人の生徒が英語学習を好きと答えている。また，英語を学習する目的を，大学受験の準備より「英語がコミュニケーショ

ンツールとして必要」と認識している生徒は20人いて，英語に対する前向きな学習意欲をもっている。一方で，27人の生徒が英語での自己表現に対する苦手意識をもち，入学当初から間違うことへの不安を抱えていて，表現活動には興味をもっているが，表現の場で臆してしまう場面も見られる。自ら発言する，英語を聞いてそれに応じる，意見交換をすることに抵抗があると思われる。これまでの指導で，生徒が無理なく自己表現するための段階的な指導と継続的な表現の場の設定が不十分であったと考える。

(3) 主題に迫るための手立て

ア　CAN-DOリストの活用

小・中・高等学校の学びを円滑に接続するCAN-DOリスト（以下「CAN-DOリスト」とする）を提示し，中学校でのインタラクティブな活動から，即興性を重視した表現活動を行う意識付けをする。また，学習到達目標を教師と生徒が共有し，指導の手立てと活動内容を明確に理解することで，単元の目標に向けて，生徒が必要なスキルや表現を身に付けるための能動的な学習が可能となるようにする。

イ　中学校との円滑な接続を図ったプレゼンテーション

中学校外国語（英語）との円滑な接続を図り，CAN-DOリスト【中学校】「話すこと」におけるレベル７と８の学習到達目標との系統性を踏まえ，CAN-DOリスト【高等学校】「話すこと」におけるレベル３に該当する英語を使う力の育成を図る。まず，準備段階として，ペアでのスピーキング活動を帯活動として設定する。教科書の音読や口頭要約に加え，与えられた話題を即興で話すone-minute monologueを行う。次に，個人のロールモデルについて，聞き手が理解しやすい段落構成を意識した発表原稿を手持ち資料として作成し，グループでプレゼンテーションを行う。その際，抵抗なく自信をもって表現活動に取り組めるようにするために，ロールモデルの主語を“Ｉ”に置き換えることで，ロールモデルと生徒自身の同一化を図る。プレゼンテーションの後，即興で質問等をしやすくするために，コミュニケーションを円滑に進めるための手立てであるcommunication strategiesを使い，理解を深めるために質疑応答をしたり，印象に残った言葉等について感想を伝え合い，各グループで最も紹介したいロールモデルについて話し合ったりする。最後に，理由を添えて全体でサマリースピーチを行う。中学校の「人を紹介しよう」，「将来の夢について語ろう」，「自分の考えをまとめる」といったテーマで行ったスピーキング活動やライティング活動による自己表現と， Show and Tellやインタラクティブフォーラム形式での表現活動に接続できると考える。

中学校における双方向的なコミュニケーション活動からの接続を図り，即興性を重視した表現活動を通して，英語を使う力を育てたいと考える。

(4) 指導計画（10時間取り扱い）

時	本時の目標	学習活動・内容	観点				方　法	評価規準
			関	表	理	知		
1・2	・ペアワークやグループワークに積極的に参加し，相手の意見を聞いたり，自分の意見を主体的に話したりする。 ・細谷氏が医師を選択した	・帯活動 ・リスニング ・Ｑ＆Ａ ・速読	○		○		ワークシート 自己評価表 行動観察	・ペアワークやグループワークに積極的に参加し，相手の意見を聞いたり，自分の意見を主体的に話したりしている。 ・英文を聞いたり，読んだり

	理由，病気の子どもたちとの向き合い方，自分の存在意義を認められるようになった経緯について概要をつかむ。							して，概要をつかむことができる。
3 ～ 8	・細谷氏の医師としての思いと，彼が考える生きる意味について読み取る。 ・ペアワークにおいて，キーワードを用いて，各パートの口頭要約を即興でする。また，「もし私が細谷氏の立場だったら」どう行動していたか，相手に伝える。 ・未来表現will，ifのない仮定法，動名詞（否定・受け身・意味上の主語）の使い方を理解する。 ・自分のロールモデルの発表原稿を作成する。	・帯活動 ・Ｑ＆Ａ ・音読活動に関連させた口頭要約 ・発表原稿作成		○	○	○	ワークシート 自己評価表	・小児がんの専門医として，病気と闘う子どもたちと向き合う細谷氏の思いと，彼が考える生きる意味について読み取ることができる。 ・即興で目的に応じて簡潔に話すことができる。 ・willを使った表現，ifのない仮定法，動名詞（否定・受け身・意味上の主語）の使い方を理解している。 ・自分のロールモデルについて，文章構成を工夫して分かりやすく伝えることができる発表原稿を作成することができる。
9 本時	・ペアワークやグループワークに積極的に参加し，相手の意見を尊重しながら自分の意見を主体的に話す。 ・自分自身のロールモデルの文のつながりや構成に気を付け相手に伝える。 ・プレゼンテーションを聞き，質疑応答をして，話の要点を捉える。	・帯活動 ・プレゼンテーション	○	○	○		発表原稿 ワークシート 自己評価表 行動観察	・グループワークに積極的に参加し，相手の意見を尊重しながら自分の意見を主体的に話そうとしている。 ・自身のロールモデルについて，文章構成を工夫して分かりすく伝えることができる。 ・プレゼンテーションや質問の答えを聞いて，話の要点を理解することができる。
10	・スピーチ原稿の加筆訂正をグループ内で検討し，提出する。	・帯活動 ・ライティング		○			発表原稿 提出用原稿	・前時の発表を基に，文法，語法，文の構成を適切な形に訂正し，必要に応じて情報を加えることができる。

４　本時の指導

(1) 目標

○　ペアワークやグループワークに積極的に参加し，相手の意見を尊重しながら自分の意見を主体的に話そうとする。　（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）

○　自分自身のロールモデルについて，文のつながりや構成に気を付けて相手に伝えることができる。　（外国語表現の能力）

○　プレゼンテーションを聞いて，それについての質疑応答をすることで，話の要点をとらえることができる。　（外国語理解の能力）

(2) 準備・資料

発表用原稿，ワークシート，自己評価表，プレゼンテーションツール

(3) 展開

学習活動・内容	指導と評価
1　Greeting	

2　Warm up（ペア） ・One-minute Monologueを行う。なじみの話題について自分の意見を即興で伝える。 ・ワードカウンターに使用語数を記入する。	・生徒になじみのある話題をトピックとして提示する。即興で話す力の向上を目指すために記録を残させる。 ・学習課題と自己評価表を配布し，個人で本時の目標を設定しやすくする。
3　Check Today's activities － Today's Activities － ①Give a presentation on your role-model. ②Ask and Answer questions. ③Tell impressions. ④Have a discussion about the most impressive role model. ⑤Feedback/Reflection	・事前に，相手に分かりやすく自己表現するための論理的構成を意識させるワークシートを配布し，発表原稿を準備させておく。 ・Chairperson script を配布する。 ・Communication strategiesをできるだけ使用するよう助言する。 － Communicarion strategies － １．別の言葉で言い換える ２．相づちを打つ ３．説明を求める ４．内容をふくらませる ５．意見・感想を言う ６．話を総括する
4　Presentation and Discussion（グループ） ・Chairperson 1人・Speaker１人・Listener２人の役割で，役割を変えて一巡する。 【Chairperson】 スクリプトを用いてプレゼンテーションの司会をする。ディスカッション後に，最も印象に残ったロールモデルの名前を板書する。 【Speaker】 ポスターを見せながら，相手に意味内容が伝わるように，易しい英語で，音声や強弱に留意し，はっきりと話す。 主語をＩにして自分のロールモデルを演じこれまでの生き方を発表する。事前に用意したポスターと発表原稿を使ってグループ内で約１分30秒間プレゼンテーションを行う。 【Listener】 ワークシートにメモをしながら聞く。その後，１分間でメモを見直し，質疑応答をした後，印象に残った言葉や内容等を伝える。 ・グループ内で最も印象に残ったロールモデルを一人選び，その理由を述べ合う。 ・クラス内で各グループのサマリースピーチを聴く。	-Chairperson script for summary speech- Hello.　Our role models are 4人（5人）のロールモデルの名前. Among them, our most impressive role model is 名前. その人物説明をする（何者？何をした？）. We are impressed by her / him.　It's because Thank you for listening. ・メモはキーワードにとどめ，聞くことに集中するよう伝える。 ・各グループを机間指導し，終始英語でやり取りをするよう指示し，必要に応じて支援する。 ㊟ グループ・ワークに積極的に参加し，相手の意見を尊重しながら自分の意見を主体的に話そうとする。（コミュニケーションへの関心・意欲・態度） ㊟ 自身のロールモデルについて，文章構成を工夫して分かりやすく伝えることができる。（外国語表現の能力） ㊟ プレゼンテーションや質問の答えを聞いて，話の要点を理解することができる。（外国語理解の能力）
5　Feedback ／ Reflection ・自己評価表の記入 6　Greeting	・数グループのまとめ発表についてコメントし，全体にフィードバックする。 ・本時の自己の取組を振り返り，うまく伝えられなかった点など次時のスピーチ原稿の加筆訂正へつなげるよう伝える。

5　授業の分析と考察

(1) CAN-DOリストの活用

CAN-DOリストを提示したことにより，28人の生徒が到達目標が明確になったと答え，

即興で伝えることを意識して活動することができるようになったと考える。CAN-DOリスト【中学校】のレベル８とのつながりを確認して授業に臨んだことで，学習意欲が高まったと24人の生徒が答えた。資料１はCAN-DOリストについての生徒の意見をまとめたものである。このことからも，生徒自身が能動的に学習する意欲の向上につながったと考える。

資料１　CAN-DOリストへの生徒の意見

- リストの中で１つでもできるようになったら，次にやるべきことが明確なのがいい。
- 英語をどれくらいのレベルまでできるようにしなければならないかが分かり，目標がはっきりする。
- 目標が設定されていれば，達成できるように努力すると思う。

(2) 中学校との円滑な接続を図ったプレゼンテーション

ア　CAN-DOリスト【中学校】レベル７と８「話すこと」との接続を図り，即興性を重視したスピーキング活動

ペアワークによる教科書の音読活動やそれに関連させてキーワードを与えて行う口頭要約，one-minute monologueを帯活動に設定したことで，生徒は間違いを恐れず即興で表現する力を向上させた。特に，one-minute monologueでは，発語数をペアが記録し，それを継続して行ったことで，生徒は１分間の自分の発話量の変化を認識し，目標をもって取り組むことができた。資料２は，one-minute monologueにおけるワード数推移である。１分間のスピーチに，必ずintroductionとbody(reasons/examples)とconclusionを入れるように指示し，即興性に論理的な話し方の要素を加えたところ，多くの生徒が，更に流ちょうに，相手に分かりやすいスピーチを展開するようになった。資料３は，活動後の生徒の感想をまとめたものである。英語での表現活動に消極的だった生徒の変容を読み取ることができる。

資料２　one-minute monologueのワード数（クラス平均）

調査日	4/24	7/29	10/21
数／分	35.7	45.5	59.5

資料３　活動後の生徒の感想

- 教科書に限定されず，自分自身の考えを発表でき，ワード数がはっきりするので，目標を立てやすい。
- カウント数が増えることが自分自身のやる気につながっていくので嬉しい。
- とにかく，話さなくてはならないから間違いを恐れることも少なくなった。

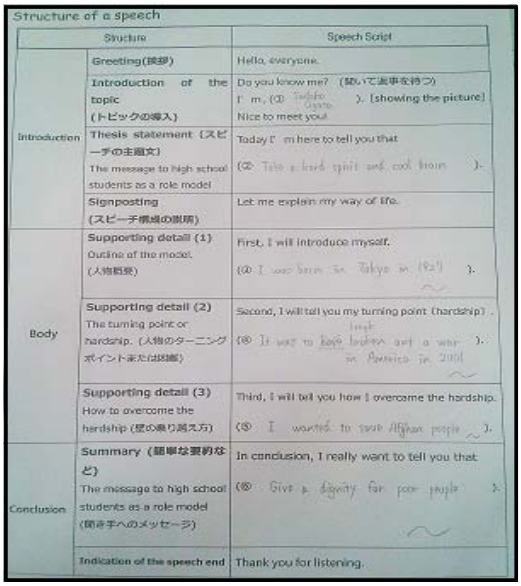
グループワークによるプレゼンテーション後の質疑応答や感想を伝え合う活動では，communication strategiesを使うことにより，会話を続けるための表現を生徒自身が工夫していることが観察からうかがえた。また，メモ用紙を使ったことで，communication strategiesをより効果的に使えるようになり，メモしたことについて考えをまとめる時間を１分間とったことで，積極的に質問が出るようになった。プレゼンテーション後のサマリースピーチでも，メモを活用することにより，即興で発表する生徒が増えた。全体でのスピーチに関しては，多少の抵抗感があったようであるが，事後の意識調査（平成27年11月６日実施，第２学年２組41人）では，これらのスピーキング活動について，29人の生徒が，「コミュニケーション能力が向上した」，ほぼ全ての生徒が「英語活動においてcommunication strategiesは必要である」と回答し，多くの生徒が次の発表への自信につなげていた。

以上のことから，帯活動での表現の場の設定，communication strategiesを提示することによる即興性を重視したスピーキング活動は，英語を使う力の育成に有効な手立てであると考える。

イ　CAN-DOリスト【中学校】「話すこと」におけるレベル７と８との接続を図ったプレゼンテーションによる自己表現活動

発表原稿の作成では，ロールモデルの主語をＩ（私は）にして自己表現の形にしたことにより，伝えやすく，聞き手にとっても理解しやすい原稿となり，英語のやり取りが活発になった。資料４は，下書きとして活用したワークシートである。このワークシートは，one-minute monologueの継続として，introduction，body，conclusionの三つの構成としたもので，生徒が自分の考えなどをまとめる上で有効であった。ワークシートの裏面には，資料５に示すように Draft ごとにチェックリストを明記し，各項目を確認できるようにすることで，生徒自身が表現を確認したり，工夫したりしていた。活動はグループ内で行ったため，全体での発表に比べ話す相手が少人数であり，ほとんどの生徒が終始笑顔で表現活動に取り組むことができた。

資料４　下書き用ワークシート



Structure of a speech

	Structure	Speech Script
Introduction	Greeting(挨拶)	Hello, everyone.
	Introduction of the topic (トピックの導入)	Do you know me? (聞いて返事を待つ) I' m, (① Tadaho Ogata). [showing the picture] Nice to meet you!
	Thesis statement (スピーチの主題文) The message to high school students as a role model	Today I' m here to tell you that (② Take a hard spirit and cool brain).
	Signposting (スピーチ構成の説明)	Let me explain my way of life.
Body	Supporting detail (1) Outline of the model. (人物概要)	First, I will introduce myself. (③ I was born in Tokyo in (92')).
	Supporting detail (2) The turning point or hardship. (人物のターニングポイント来たは困難)	Second, I will tell you my turning point (hardship) . (④ It was to have broken out a war in America in 2001).
	Supporting detail (3) How to overcome the hardship (困難の乗り越え方)	Third, I will tell you how I overcome the hardship. (⑤ I wanted to save Afghan people).
Conclusion	Summary (簡単な要約など) The message to high school students as a role model (聞き手へのメッセージ)	In conclusion, I really want to tell you that (⑥ Give a dignity for poor people).
	Indication of the speech end	Thank you for listening.

資料５　チェックリスト

1st Draft Check List

□　書き始める前に内容を十分に考え，メモを有効に使った。
□　辞書で調べた難しい表現に頼りすぎず，自分の知っている表現を積極的に用いて英文を書いた。
□　書いた英文を読み返し，直せるだけ文法の誤りを直した。(S+V)

資料６　プレゼンテーションに関する生徒への質問事項及び主な回答

問１）よいプレゼンテーションをするために必要な要素は？
・聞き手が聞き取りやすい声の大きさや速さと抑揚　　・相手のことを考えた文の構造や話し方
・聞き手が理解しやすいジェスチャーやアイコンタクト　・伝えたいことをはっきりさせること
・相手の立場に立って誰に話しても分かりやすい英語を使うこと　・論理的なスピーチ

問２）プレゼンテーション活動で得られる力は何か？
・相手が理解しやすい言葉でスピーチを考えようとする力
・英作文の時にも分かりやすくしようと自然と意識しました。
・辞書に頼るばかりでなく，自分の言葉で伝わりやすさを考えた文章づくりができる。
・今は，インターネットの翻訳サイトなどで簡単に英文を作ることができるが，自分が分かっていても相手に伝わるとは限らない。誰に話しても分かりやすいように相手の立場に立って考えることが大切だと思う。

これらことから，帯活動で定着した知識や技能を活用したプレゼンテーションによる自己表現活動は，英語を使う力の育成に有効な手立てであったと考える。

６　成果と課題

(1) 成果

一方的なスピーチやプレゼンテーション活動だけでなく，質疑応答や感想を伝え合う活動を取り入れることで，より即興性を重視した表現活動にすることができた。また，帯活動で継続してスピーキング活動を行い，その中で文章構成などに慣れさせることが表現活動の基礎になることが確認できた。即興性を重視した自己表現を経験したことで，英語を学ぶ理由を「将来のコミュニケーションツールとして必要」と答えた生徒や英語の必要性を感じ，今まで以上に意欲的に英語を学ぶようになった生徒が増加した。本研究を通して，生徒が，漠然と英語で話したいという思いから，相手に理解されることや即興性を意識して英語で話したいという具体的なイメージをもち，そのための手立てを身に付けたことで，英語を使う力の育成につながったと捉えている。

(2) 課題

主張をサポートする理由や具体例を聞き手に分かりやすく表現する活動の工夫がまだ不十分であるため，即興で話す力を伸ばす活動についての評価方法が課題として残った。また，今後導入するディベート活動につなげていくために，論理的思考力を鍛える帯活動やタスク活動の充実を図っていく。

Ⅲ　研究のまとめ

外国語活動・外国語（英語）科では，研究主題である「英語を使う力を育てる外国語活動・外国語（英語）科授業づくり」に迫るために，小・中・高等学校の学びを円滑に接続させるCAN-DOリストを活用した学習指導の工夫を通して研究を進め，県内小学校１校，中学校２校，高等学校１校で授業研究に取り組んだ。

以下，研究の取組から本研究についての主な成果と課題を述べる。

１　成果

(1) 各学校段階の学びを円滑に接続させるためのCAN-DOリストの作成

・小学校におけるCAN-DOリスト（ふり返り）と中学校及び高等学校におけるCAN-DOリストを接続し，小・中・高等学校の学びを貫くCAN-DOリストを作成したことで，各校種を越えて目指す「英語を使って何ができるようになるか」という児童生徒の姿が明確になった。このことにより，教師が，明確化された学習到達目標を達成するための表現活動を精選し，適切な工夫も加えることができた。

・小・中・高等学校の学びを貫くCAN-DOリストを作成し，児童生徒間で共有化したことで児童生徒自身の現在と将来の学習目標が明確になり，表現活動に意欲的に取り組むことができた。

(2) CAN-DOリストを活用し，表現活動を中心に英語を使う力を育てる学習指導の工夫

・CAN-DOリストを活用し，小・中学校の円滑な接続を図ったタスク活動及びデジタル教科書によるＩＣＴ活用は，初歩的な英語を使って自分の考えや気持ちを表現できる力を高めた。また，学び方を共有化しながら，学びの充実を図ったことで，間違いを恐れず英語を使って表現しようとする意欲が高まった。（小・中学校）

・CAN-DOリストを活用し，中・高等学校の円滑な接続を図ったインタラクティブ・アクティビティ及びプレゼンテーションの指導は，英語を使って自分の考えや気持ちを表現でき，英語を使う力を高めた。また，高等学校における学習到達目標と言語活動を見据えて展開した中学校における学習指導の工夫は，高等学校への円滑な接続に効果的であった。（中・高等学校）

・CAN-DOリストを活用したことで，校種を越えて育て上げる児童生徒の姿と，そのために各校種で目指す児童生徒の姿が明確になった。これにより，各校種を意識し，小・中・高等学校で一貫した学習指導が可能となり，学習到達目標を達成するための小・中・高等学校を円滑に接続させ，英語を使う力を育てる上で効果的であった。（小・中・高等学校）

２　課題

小・中・高等学校の学びを円滑に接続させるCAN-DOリストの効果的な活用方法を検証し，４技能を通じて「英語を使って何ができるようになるか」という観点から設定された学習到達目標を確実に達成するための言語活動の進め方について研究する。

＜引用文献＞

文部科学省　「小学校学習指導要領」　平成20年３月

文部科学省　「中学校学習指導要領」　平成20年３月

文部科学省　「高等学校学習指導要領」　平成21年３月

文部科学省　「今後の英語教育の改善・充実方策について　報告～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～」　平成26年10月

＜参考文献＞

文部科学省　「各中・高等学校の外国語教育における『リスト』の形でのCAN-DO学習到達目標設定のための手引き」　平成25年３月

関係者一覧

１　研究協力員

筑西市立大田小学校	教諭	小倉　裕子
高萩市立高萩中学校	教諭	斎藤　崇
那珂市立第四中学校	教諭	久保田　善徳
県立水戸第二高等学校	教諭	袴塚　かつ良

２　茨城県教育研修センター

	所長	石﨑　千惠子
教科教育課	課長	金子　敏久
同	指導主事	永尾　剛
同	指導主事	長久保　静江